

2019年11月23-26日の教皇フランシス訪日に際して 国際パックス・クリスティ声明

国際パックス・クリスティは、カトリック正義と平和協議会とともに、教皇さまの広島、長崎訪問を歓迎します。教皇フランシスコは、今まで核兵器廃絶について、力強く発言されています。広島、長崎を訪問され、核兵器 全面廃止への具体的なプロセスについて、発言されることが、期待されます。

国際パックス・クリスティは、この司牧的訪問が、核兵器の非道徳性を指摘するだけでなく、平和の文化と持続的開発を築くための根本的な倫理観としての非暴力の重要性に、焦点をあてることを期待します。

1945年、日本は、再び起こってはならない悲劇を体験しました。しかし、広島と長崎の苦しみが繰り返される危険は、今日も存在しています。その意味で、パックス・クリスティは、教皇さまの、いかなる国も核兵器使用と保有を退けるべきという勧告を喜びをもって歓迎します。

またバチカン市国が、核兵器廃絶条約を最初に調印、批准した国であったことを称賛します。

カトリックのグローバルな平和運動である国際パックス・クリスティは、信仰者として、ヒバクシャの力強い非暴力の証に感動しています。また、北東アジア、アジア太平洋地域、その他の場所で、正義と平和のために、非暴力の働きを続けている人びとの証は、私たちにインスピレーションを与えます。この訪問により、日本

と各国の政府が、教皇さまの言葉を深く心に受けとめますように。

「大量破壊兵器、とくに核兵器は、偽りの安心感を与えるだけです。人間家族の平和共存の基盤となることは、決してできません。連帯の倫理観のみが、平和的共存を可能にするのです。」

国際パックス・クリスティは、教皇さまにお願いいたします。日本と北東アジアの国ぐにの政府に核兵器廃絶条約の批准を呼びかけてください。1945年に核兵器の攻撃を受けた日本は、北東アジアと世界は、核攻撃の脅威に直面している今、この行動においてリーダーとなるチャレンジを、特に持っています。

教皇さまの旅が、多くの人びとの回心を触媒する機会となりますように。国際パックス・クリスティは、この意向で、教皇さまの訪問を祈りで支えます。